

令和6年度やまなし読書活動促進事業



あんな時、こんな時、あなたの人生に寄り添う1冊。
それはきっと、かけがえのない宝物。

図書館司書が選ぶ こんな時、この一冊。



令和6年9月6日(金)～12月1日(日)

読書の目的は人それぞれですが、その中で何度も読みたい本に巡り会えたら… その本は、うれしいとき、辛いとき、悲しい時など、様々な場面できっと、あなたを支えてくれるでしょう。

山梨県内の公共図書館司書がとっておきの1冊を紹介する「こんな時、この一冊。」をお届けします。

あなたと本との素敵な出会いの一助となりますように。

やまなし読書活動促進事業（やま読）とは？

この事業は、家族や友人、親しい人などに本を贈る習慣を広め、県民一人ひとりの読書への関心を高めることで、読書習慣を確立し読書活動の推進を図ることを目的としています。山梨県教育委員会、図書館、書店等が連携し、「贈りたい本大賞」「ビブリオバトルやまなし」「やま読ブックフェア」「やま読ラリー」など、様々な事業を展開しています。

2019年、第13回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」を受賞しました。

大人になることに不安を感じた時に

『サラと魔女とハーブの庭』

七月隆文／著 宝島社

「子どもの心」を失いたくない、誰にも見えない友だちサラと別れたくないと、田舎の祖母の家で暮らす決心をした由花。『ここにいるのは本当に楽しい。ずっとこんな日が続いてほしいと思う』祖母の薬草店での手伝いや祖母の過去を通して視野が広がっていく。成長しても、サラはずっと由花の心の中にいる。だから、何があっても大丈夫。

(甲府市立図書館)

思い出を振り返りたい時に

『人質の朗読会』

小川洋子／著 中央公論新社

反政府ゲリラに拉致され、死亡した人質たち。録音テープには、監禁中、彼らが各々の思い出を物語として語り合った様子が残されていました。その思い出はごくありふれた日常に思えるけれど、語られることで唯一の物語になって、彼らの生きた証となって残ります。自分の思い出を物語にするなら…と考えてしまう一冊です。

(甲府市立図書館)

ほんの少し刺激が欲しい時に

『ときどき旅に出るカフェ』

近藤史恵／著 双葉社

主人公が偶然立ち寄った喫茶店『カフェ・ルーズ』。「旅に出られるカフェ」をコンセプトにするそのお店を営んでいたのは、主人公の元同僚だった。優しい物語でありながら、ミステリ要素が良い刺激となって読者を飽きさせない。日々のモヤモヤ、不穏な会話や気がかりな発言の謎を、世界の料理がひも解いていく、連作短編集。

(甲府市立図書館)

日々に彩りが欲しいと感じた時に

『美しい「歳時記」の植物図鑑』

『美しい「歳時記」の植物図鑑』編集委員会／編
山川出版社

俳句に詠まれる季語。季語とは、その名の通り季節を表す言葉のことです。その季語をまとめたものが歳時記であり、この本はその中でも植物についてまとめたものになります。日々の生活のなかでふと目にする様々な植物。その名前や特徴を知ること、視覚的にも、精神的にも、日々に彩りが生まれるかもしれません。

(甲府市立図書館)

気持ちを整理したい時に

『あなたの言葉を』

辻村深月／著 毎日新聞出版

辻村深月が「毎日小学生新聞」で連載している記事をまとめたエッセイ集。自分について分析し、「自分の言葉」で整理して考え、知ることには、きっと大きな意味があると、自らの体験を元にまっすぐに語りかけてくる。「自分の気持ち」を大切にきてきた著者の言葉だからこそ、子どもの心にも、大人の心にも優しく響く一冊。

(都留市立図書館)

「あれ、気づいたらスマホばかり見ているな。」な時に

『人間であることをやめるな』

半藤一利／著 講談社

動画を眺めて、気づけば数時間。スマホ時間は楽しいけれど、漫然とした行為に脳が凝り固まっている気が…。昭和史研究の第一人者で作家・半藤一利のエッセイや講演録をまとめたこの本。司馬遼太郎、石橋湛山、宮崎駿らに触れ、自ら考えることの大切さを語りかけています。軽快な半藤節でガツンとやられると、目の覚めるような爽快感が！

(山梨市立図書館)

働くとはなにかと考えた時に

『師弟百景』

井上理津子／著 辰巳出版

働くとは、仕事をするとはどういうことか？人生のどこかで誰もがぶつかるテーマではないだろうか。多様化する今、働き方も様々な選択肢がある中で、職人の道を選んだ者とその師匠との関係に答えが少し見えてくる。「背中を見て覚える」から「理論を教える・学ぶ」という時代への変化。伝統の継承の重みと尊さを感じる。

(大月市立図書館)

さわやかな青春小説では物足りない時に

『マシュマロ・ナイン』

横関大／著 KADOKAWA

野球部員、監督、マネージャーが一丸となって甲子園を目指す、ただの青春小説…ではありません！部員は元相撲部の9人、総重量は1トン超え。彼らが甲子園に出場できなければクビと、宣告を受けている監督は、突然とある事件に巻き込まれて…。ドタバタ青春ミステリー小説です。最後まで爽快に楽しめます。是非どうぞ！

(南アルプス市立図書館)

勇気づけられたい時に

『かえってきたさけ』

フレッド・フレガー／文 文化出版局

調査のため目印に赤いひもをつけられたさけの「あかひも」。水の匂いをたどって自分の生まれた川へ戻るふしぎな生態と短い一生が、アーノルド・ローベルの絵で臨場感たっぷりに描かれています。他の動物に命を狙われながらも、厳しい自然の中で子孫を残すため全力で生きる姿に強く励まされます。

(甲斐市立竜王図書館)

子どもに「赤ちゃんはどこからくるの?」と聞かれる前に

『「げっけいのはなし いのちのはなし」
から広がる世界』

大石真那／著 みらいパブリッシング

「いつ、どう話せばいいかわからない」という保護者必見! 性のことだけでなく、人権や多様性、性被害の防止まで内容は幅広い。子どもが生まれたり(男の子にも)小さい頃から同タイトルの絵本版を利用して、何度でも「あなたのことがとても大切」であることを伝えてあげて欲しい。

(北杜市むかわ図書館)

「知的な大人」に近づきたいと思った時に

『大人ことば辞典』

ことば探究舎／編 青春出版社

普段の話し言葉とは一味違った「大人ことば」を使ってみませんか? この本を読んで、古来から使われてきたやまと言葉や昭和のフレーズ、文学的な言い回しなど、懐かしくも新鮮な「エモい」言葉を身につけましょう。「大人ことば」を使いこなすことができれば、周りから一目置かれること請け合いです。

(笛吹市石和図書館)

ちょっと疲れた時に

『満月珈琲店の星詠み』

望月麻衣／著 文藝春秋

満月の夜に選ばれた人だけが訪れることができる“満月珈琲店”。

場所も決まっておらず、メニューもおまかせのみ。しかも、店員もマスターも人間の言葉をしゃべる猫!? 悩みを軽くする「星詠み」とともに提供される料理はどれも綺麗な名前でおいしそうなものばかり。疲れた心に綺麗な料理と「星詠み」が優しく染み渡る一冊です。

(笛吹市一宮図書館)

迷いや悩みがある時に

『いのち愛しむ、人生キッチン』

桧山タミ／著 文藝春秋

料理家・タミ先生が世界中の料理を学びながら得た経験から、食卓が日々の生活を豊かにし、生きる元気の源になるための知恵や心がけを伝えてくれます。無理せず自然体で過ごすことの大切さにも触れ、台所に立つたくさんの人を勇気づけてくれる一冊です。

(上野原市立図書館)

自分の気持ちを上手く言葉に表せない時に

『その気持ち、なんて言う?』

NHK「言葉にできない、そんな夜。」制作班／編
祥伝社

胸が高ぶるような体験をしてその気持ちを伝えたいのに、いざ言葉にするとしっくりこない…そんな経験をしたことはありませんか? 自分の気持ちにぴったりの表現が見当たらない時、言葉に表すことのできないもどかしさを代弁してくれる一冊です。

言葉のプロたちによる、感情の伝え方、素敵な表現方法をお楽しみください。(中央市立玉穂生涯学習館)

人間観察力を高めたい時に

『ミス・マーブルと13の謎』

アガサ・クリスティ／著 東京創元社

「まだまだ人生経験が足りませんよ」

親しい仲間の集い〈火曜クラブ〉。持ち込まれる不可解な謎を、深い洞察力で解き明かす老婦人ミス・マーブル。推理パート以外でも、個性を際立たせる端的な描写、登場人物の一連の言動への説得力、文章の随所で著者の鋭い人間観察眼が光ります。人を見る目が養える〈実用的〉な一冊。

(市川三郷町立図書館)

平和を願う時に

『きみは、ぼうけんか』

シャフルザード・シャフルジェルディー／文
ブロンス新社

「ぼうけんかになりたくない?」兄の一言で、幼い2人の兄妹が戦火から逃れる「ぼうけん」がはじまる。爆撃を受けた自宅から「ぼうけんかのまち」を目指す2人。過酷な状況でも思いやりと想像力で乗り越えようとする2人の姿に心打たれる。戦争で色をなくした1ページ目から、色を取り戻す最後まで、見届けてほしい一冊。

(市川三郷町立図書館)

身近な植物で癒されたい時に

『愛でる、食べる、楽しめる！「暮らしとからだに効く植物の名前」300がよくわかる図鑑』

主婦と生活社

身の周りにある植物が暮らしを豊かにしてくれる!!

育てて食べて、いろいろなクラフトにも使える、ハーブを中心とした植物 300 種類が載っている植物図鑑。項目別になっていて分かりやすく、索引から気になる植物を探すこともできるので使いやすい。料理はもちろん、おもてなし時など日々の生活に取り入れて、人生にプラスαの豊かさを。

(身延町立図書館)

言葉の大切さを感じた時に

『あなたの言葉を』

辻村深月／著 毎日新聞出版

心の中では沢山の思いがある、でも言葉にできない伝えられない。そんな経験は誰にでもあります。本書は児童向けに「毎日小学生新聞」に連載した記事を短編としてまとめた内容で、思いを言葉にする大切さを優しく語っています。様々な場において言葉によるコミュニケーションの重要性を改めて感じた時、子どもも大人も参考になる一冊です。

(南部町立図書館)

子育てがなつかしくなった時に

『「ぼくのおかあさん」

2ねん1くみすぎしたげんき』

川之上英子／文 アリス館

今日は授業参観日。作文の発表です。順番がまわってきた「げんき」くんは、美容師のお母さんのすごいところ・怖いところなどをゆっくりと長〜く読みながらお母さんが教室に現れるのを、ドキドキしながら待ちます。はたして、読み終わるまでに間に合ってくれるのか…。

子どもはこんなにも落ち着かずそわそわ待っていたのかと、改めて子育ての楽しさを思い出す、そんな一冊です。

(南部町立図書館)

旅に出たくなった時に

『深夜特急』

沢木耕太郎／著 新潮社

「計画を立て、その通りに動くくらいなら、このような旅をする必要はないではないか」と著者は計画を立てずに旅に出る。異国の地で迷い、目的を失い、協道にされることも。それでも経験する全てを受け入れ、楽しみながら旅をする。どんな状況下でも、楽しもうとする気持ちがあれば、旅は最高のものになるのだろう。

(富士川町立図書館)

気持ちが焦ってしまう時に

『じゅんばんじゅんばんじゅんばんですよ』

accototo／さく 大日本図書

なんとなく気持ちが焦って失敗ばかりしてしまう日。心が落ち着かなくて眠れない夜。そんな日は、ぜひこの絵本を開いてみてください。ゆっくりと、でも確実に移り変わる四季の様子。そして、「じゅんばん じゅんばん じゅんばんですよ」この言葉の繰り返しがきっと疲れたあなたを癒してくれます。

(昭和町立図書館)

空想の家で暮らしてみたい時に

『ものがたりの家』

吉田誠治／著 パイインターナショナル

まだどこにもない物語に登場する家々——たとえば竜と暮らす家、人形に魅入られた婦人の屋敷、炭鉱夫のエンジン小屋。それぞれがどんな物語に登場する家なのか。空想をめぐるせてみたくなる間取りがたくさん詰まった一冊。コラムや巻末のメイキングから垣間見ることができる、緻密な国や時代の背景に関する考証も必見です。

(山中湖情報創造館)

映画を観たいけれど何を観るか決まらない時に

『18歳までに子どもにみせたい映画 100』

有坂塁／著 KADOKAWA

サブスクや配信サービスが充実した現代。映画を観ようと思っても、自分が何を観たいかわからなくなってしまう事はありませんか？この本では 25 のテーマに沿って、100 作の映画をイラストと解説付きで紹介。洋画も、邦画も、思わず泣いてしまう映画から、思いっきり笑える映画まで。きっとあなたの「観たい」が見つかります。

(山梨県立図書館)

毎日慌ただしくゆっくりできていない時に

『迷子手帳』

穂村弘／著 講談社

忙しくて余裕がない毎日だな」と感じていたら本の中で「迷子」になってみませんか？慌ただしいと目に入らない、余計な力を抜いて日々を楽しめる世界の見方が見つかるかもしれません。1編が短いので通勤通学中、休み時間、寝る前などいつでも読めて一息つけるエッセイ集。角が丸く可愛い装丁もおすすめの一冊です。

(山梨県立図書館)



甲斐市の偉人 山県大弐

山県大弐は1725年、巨摩郡篠原村(甲斐市篠原)に生まれ、天文学や医学にも精通した思想家です。現在は「学問の神様」として知られ、山県神社に祭られています。

政治や経済、身分等について書かれた大弐の著書『柳子新論』は、幕末に活躍した吉田松陰にも影響を与えたと言われています。2014年には、富士川町在住の作家・江宮隆之氏により、小説『明治維新を創った男 山縣大弐伝』で、大弐の生涯とともに、吉田松陰との繋がりが描かれました。

2025年は山県大弐生誕300年を迎えます。甲斐市立竜王図書館では、郷土の偉人を多くの方に知っていただき、後世に伝えていくため、今後も「山県大弐」に関する資料を収集してまいります。

(甲斐市立竜王図書館 市岡香菜子)

甲斐市立竜王図書館 編



山県大弐について書かれた本



図書館ボランティアの日常から



音声案内でスマホも自由自在!



Vol.12 講演「視覚障がい者の生活と読書」

6月21日(金)、代読サービス分野の企画で講演会を行いました。山梨県視覚障がい者福祉協会会長の埜村和美氏をお招きし、デジター図書での読書や、松本市の盲学校での思い出話、見えない暮らしの中での家事の工夫、音声雑誌の制作の話など、多方向からの貴重なエピソードに皆聞き入りました。「見えないからこそ人や世の中とつながっていくことが大切」、との言葉にこちらも勇気をもらいました。

(図書館協力員担当 三森)

Information

2024年度下半期のイベント

10月14日(月) 中高生
ジョイントコンサート

合唱、吹奏楽、弾き語りなど、県内の中高生によるコンサートです。フレッシュな演奏をぜひ間近でお楽しみください。

12月7日(土) 放送大学公開講座 思春期のこころ
～「魔女の宅急便」から考える～

思春期のこころの特徴と、大人がどのように関われば良いのかというポイントを「魔女の宅急便」の物語をもとに解説します。

休館のお知らせ

10月28日(月)～11月5日(火)、図書館情報システム機器更新のため、閲覧エリアは休館します。期間中は当館ホームページ(10月28日(日))は交流エリア及び返却ポストもご利用いただけませんので、ご注意ください。



山梨県立
図書館
YAMANASHI
PREFECTURAL
LIBRARY

山梨県立図書館報
読書山梨156号
発行日 2024年10月1日

発行:山梨県立図書館(かいぶらり)

〒400-0024 甲府市北口2丁目8番1号
TEL:055-255-1040(代表) 255-1041(施設予約) FAX:055-255-1042
URL <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>
E-mail ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp

読書山梨



YAMANASHI
PREFECTURAL
LIBRARY

山梨県立図書館報
156
2024.10.1 発行

小学校の講演会

館長コラム

図書館長の主な仕事は県内各地での講演会です。いろいろなところでしましたが、先日は都留の全校生徒31人という小学校、お相手は1年生から6年生。今までいろんなところでいろいろな聴衆がいましたが、主な聞き手が小学1年生というのは初めてでした。

そもそも、6歳の子供を相手に講演が可能か、50分ということでしたが、そんな長い時間を聞いてもらえるものなのか、まったく自信がありません。文化勲章をもらった俳句の大家相手の講演会とか、学士院会員の聴衆とかいろいろしましたが、この子供たち相手の講演会ほど緊張させられたのはありませんでした。彼らはいくつ年前までは、この世に存在していなかった、できたてのほやほや、湯気が立っているような存在です。

成果はよくわかりませんでした。とりあえず50分、なんとか椅子に座っていてくれました。目を輝かす子もいたし、何やらわからないことを一生懸命伝えようとする子もいて、とても賑やかで楽しく、極めて刺激的な時間を私としては過ごすことが出来ました。

すべての人に図書館はあって、そう、つい最近まで地上にいなかった人のためにも、県立図書館は開かれているのだと実感させられました。とても疲れましたけど。



金一秀穂

この本が
好き!

図書館スタッフおすすめの1冊



山のアトリエや東京での日常を綴った密やかで不思議な散文と、静謐な絵で織りなす、絵本作家・酒井駒子氏の初の画文集。

『森のノート』 酒井駒子/著
筑摩書房 2017.9
文章に耳をすませる感覚



山梨県立図書館
企画振興担当
山本真水

この子が見つめている先には何があるのだろう。酒井駒子さんの手がけた作品を見ると、そう感じます。しん、とした美しさをたたえた子どもたちや動物たちの絵と、どこかひんやりした印象のエッセイから成っている一冊。綴られているのは酒井さんの生活の断片のはずなのに、気が付けば日常と非日常の隙間にあるような世界に連れ出され、どんどん引き込まれます。淡々とした文体は静かに囁くようで、読んでいるのに思わず耳をすませてしまいます。こまやかな描写に想像をふくらませていくひとときが、とても好きです。

あなたの「知りたい」をサポート パスファインダーを ぜひお役立てください



あるテーマについて調べる際に、役に立つ資料や調べ方をまとめたものを「パスファインダー」といいます。県立図書館では、山梨に関する事柄や、問い合わせの多い内容を中心に、様々なテーマのパスファインダーを作成しています。調べる手順や基本的な資料を、A4サイズ2ページ分に簡潔に紹介したものです。大人向けと子ども向けがあり、館内で配布しているほか、ホームページからもご覧いただけます。

大人向けには、人物情報、法令、医療情報、日本の歌の歌詞をテーマとして調べ方を紹介しています。郷土編では、山梨の歴史や県内の社寺、石碑、歴史的建築物、甲州道中やほうとう(餚飩)の調べ方について紹介しています。

子ども向けは、小学校高学年から高校生の利用を想定して作成しています。外来種(外来生物)や選挙、和紙など10のテーマのほか、方言、伝統工芸、郷土料理など山梨に関する9のテーマで作成して公開しています。

大人向けと子ども向けの両方を組み合わせて、より詳しい調査をすることもできます。

例えば、県立図書館には「ほうとう」の起源や歴史、レシピについての問い合わせが多く寄せられますが、大人向けの「ほうとうについて調べる」と、子ども向けの「山梨の郷土料理について調べよう!」のパスファインダーをご覧いただくと、やさしく書かれた本から学術論文まで、幅広い情報へアクセスすることができます。

今後も様々なテーマのパスファインダーを作成していく予定ですので、ぜひ調べ物の際にご利用ください。

(調査サービス担当 山本、子ども読書推進担当 後藤)

放送ライブラリー 視聴サービスの提供を開始しました

放送法に基づく国内唯一の放送番組専門のアーカイブ施設である「放送ライブラリー」が保存・公開しているテレビ・ラジオ番組の中から、山梨県に関する過去の番組の一部を視聴できるようになりました。富士山や南アルプスの自然、武田信玄などの歴史、郷土の祭りや伝統工芸などさまざまな番組をお楽しみください。

〈放送ライブラリー〉視聴サービスは、館内のパソコン席からご利用いただけます。ご利用の際は、サービスカウンターにお申し出ください。なお、パソコン席の申込みには、図書館利用カードが必要です。(情報システム担当 馬淵)



テーマ展示の報告 地方病をのりこえて

令和6年7月26日～9月29日

山梨の人々を苦しめた地方病(日本住血吸虫症)の病原体が発見されてから今年で120年。流行終息宣言が出されたのは平成に入ってからです。山梨をテーマに本を紹介する情報サテライト2では、この夏、地方病や山梨県の医療に関する資料、医療関係者による著作など約100冊を展示しました。COVID-19 流行による社会の混乱の記憶がまだ新しい現在、過去の医療や公衆衛生に関する記録から何かを得ていただければ幸いです。

(調査サービス担当 大平)



県図書TOPICS

TOPIC1

図書館アクアリウム

青いビニールを水槽に見たてたガラス面に、5種類の紙製の金魚を貼り付けて、涼しさや、夏の訪れを感じていただけるイベントを開催しました。訪れた方々がペンで目やうろこを描いた様々なデザインの金魚が日ごとに増え、館内を華やかに彩りました。
(指定管理者きらっとやまなし共同事業体 野村)



TOPIC2

子どもの読書 オープンカレッジ(第2回) を開催しました

7月11日(木)、山梨むかしがたりの会代表の藤巻愛子氏を講師にお迎えし、「昔話の語りっこ」をテーマに開催しました。参加者は昔話・伝説の特徴や語り方を学んだ後、グループに分かれ、講師が語る「こわい話」「かわいそうな話」「おもしろい話」をその場で覚えて語りました。
(子ども読書推進担当 後藤)



TOPIC3

かいぶらり 夏休みこども映画会

7月28日(日)、笛吹市出身の小説家、辻村深月氏の小説を劇場アニメ化した、『かがみの孤城』を上映しました。中学生の心理が丁寧に描写され、互いに支え合いながら困難を乗り越えていく姿が印象的でした。エンドロール終了後も会場にいた全員が心地よい余韻に浸っていました。
(企画振興担当 佐藤)



TOPIC4

やま読フォーラムに 金田一館長が登壇しました ～やまなし読書活動促進事業～

8月10日(土)に都留文科大学でやま読フォーラムが開催されました。フォーラムテーマは「人文知と言葉・読書」で、金田一館長の講演のほか、読者の立場から「なぜ本を読むのか」を参加者と議論しました。大学生による読書活動の事例発表もあり、充実したフォーラムとなりました。
(企画振興担当 丸山)

